

事業実施報告

JHA エリートアカデミー第2期 第2回集合合宿/適性検証合宿（広島県・広島市）

報告者：馬場治男

(JHA エリートアカデミー校長/強化育成本部アンダーカテゴリー強化育成副部長)

1 会場

- ・合宿会場：1日目(9/23)：広島広域公園第2球技場
〒731-3167 広島市安佐南区大塚西5丁目
2日目(9/24)：コカ・コーラレッドスパークス ホッケースタジアム
〒731-3351 広島市安佐北区安佐町毛木799
JR 西日本広島総合グラウンド内
- ・宿泊施設：ホテル法華クラブ広島
〒730-0037 広島県広島市中区中町7-7

2 参加者

(1) スタッフ

	氏名	所属等
1	馬場 治男	JHA エリートアカデミー事業責任者/飯能市教育委員会
2	三好 浩史	統括コーディネーター/表示灯(株)
3	富田 恭平	統括コーチ/社会福祉法人それいゆの会
4	松村 洋介	NFコーチ/岩手町立川口中学校 y
5	眞鍋 敬子	NFコーチ/佐賀県スポーツ協会
6	森 宜裕	トレーナー/一般社団法人 BeeTanz
7	高橋 亨輔	旅行業務取扱担当/(株)ランブリッジ
8	萩塚 控未	サポートスタッフ
9	中元 大輔	サポートスタッフ
10	衛藤 凜	サポートスタッフ

(2) アスリート

	選出区分	氏名	性	所属/学年
1	J-STAR_5期	下田 侑樹	男	岩手県・滝沢南中/3年
2	J-STAR_5期	生井こころ	女	茨城県・手代木中/2年
3	エリートアカデミー1期	渡邊 皓俄	男	岐阜県・小泉中/3年
4	エリートアカデミー1期	小池 咲代	女	岐阜県・中央中/3年
5	エリートアカデミー1期	荒永 真希	女	富山県・蟹谷中/3年
6	開発実証	榎原 東子	女	愛知県・武豊中/2年
7	開発実証	古田 紗友花	女	広島県・鈴が峰小/6年

8	U15 (東北)	晝八 一綺	男	宮城県・築館中／3年
9	U15 (関東)	土橋 拓矢	男	山梨県・白根御勅使中／3年
10	U15 (東海)	鬼束 康介	男	静岡県・沼津市立高等学校中等部／3年
11	U15 (近畿)	常喜 琥太郎	男	滋賀県・伊吹山中／3年
12	U15 (中国)	宮本 康樹	男	島根県・横田中／3年
13	U15 (関東)	瓜田 茉緒	女	埼玉県・美杉台中／3年
14	U15 (北信越)	藤井 音々	女	福井県・朝日中／3年
15	U15 (東海)	橋本 奈々	女	岐阜県・中央中／3年
16	U15 (近畿)	西田 葉名	女	京都府・瑞穂中／3年
17	U15 (中国)	宮脇 亜実	女	鳥取県・八頭中／3年

3 活動概要

1日目 (令和5年9月22日・土)	
時間	活動内容
13:00	集合 (受付、健康観察、承諾書の受領) 広島広域公園第2球技場
13:05	開校式 (進行：三好、あいさつ：馬場)
13:10-	<p>W-UP (主担当：森トレーナー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチング ・リズムトレーニング ・アジリティトレーニング ・リアクションドリル ・スプリント (動き作り) <p>※オンライントレーニングで行った トレーニングのチェック</p>



【ホッケープログラム①】

《目的》 固定概念をぶち壊す！

- ・新しい価値観、考え方をインプット
- ・ホッケー基本練習は、対人スキルを意識して
- ・ホッケーのゲームでの4つの局面（下記）、トランジションを意識したトレーニングを行なった





- ・合宿間の学習のために、映像素材をAIカメラ：STADIUM TUBEで撮影。
- ・本日から初めてGKにチャレンジするアスリートが1名おり、GKの基礎から三好コーチによる指導。（現地経験者も一緒に練習）

※指導者は、答えを教えるのではなく、学び合いを活発にするよう支援に努める。



15:00-	<p>【ホッケープログラム②】</p> <p>《テストゲーム》</p> <p>地元チーム（Hirosima Buena Vista H.C./2023 全日本中学生ホッケー選手権大会優勝チーム）とのテストマッチ</p> <p>10分×男女各2ゲーム</p>	
16:00	<p>ダウン（森トレーナーによる）</p>	
16:30	<p>バスにてホテルへ移動</p> <p>「ホテル法華クラブ広島」</p>	
18:00	<p>・夕食（広瀬管理栄養士監修メニュー／ハーフバイキング）</p>	 
19:00	<p>【アスリートプログラム③】</p> <p>* チームビルディング</p> <p>選手間での会話が弾むためのゲームを行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの振り返り ・ゲームのビデオを見てフィードバック <p>上記を効果的に行えるように、ゲームビデオを見る際の観察の視点を示した。また、映像を見ながら自己解題について考える機会を与えた。</p> <p>【アスリートプログラム④】</p> <p>* 中間面談（スタッフ2名による、個人面談を実施）</p> <p>* アスリートプログラム③と同時進行</p> <p>《面談での共通質問内容》</p> <p>Q1・・・エリートアカデミーは楽しいですか？</p> <p>Q2・・・今後の進路についてどう考えていますか？</p> <p>Q3・・・U15選考会はどうでしたか？（参加選手）</p> <p>Q4・・・エリートアカデミーへの要望はありますか？</p>	

22:00	アスリート就寝
-------	---------

2日目 (令和5年9月23日・日)	
時間	活動内容
6:00	起床 ・練習およびチェックアウトの準備
6:45	朝食 (バイキング) ※広瀬管理栄養士による監修メニュー ・事前配布した資料を参考に、アスリートに適した朝食となるよう意識的にメニューを選択させる。 
8:15	会場到着 (コカ・コーラレッドスパークス ホッケースタジアム)
8:30	W-UP *森トレーナーによるメニュー ① スポーツリズムトレーニング スポーツにおけるリズム感の養成、脳の運動野を刺激し集中力・判断力などを高める ② ストレッチング 股関節、脊柱、肩甲帯を中心に身体をほぐす ③ スプリントメニュー 繰り返し動作も含めた、加速トレーニング 
8:50	【アスリートプログラム⑤】 *昨日のミーティングを踏まえて、自分たちでトレーニングメニューをデザイン ・ゲームの場面 ・トランジションを意識

9:30-

【アスリートプログラム⑥】

《テストゲーム》

地元チーム（Hiroshima Buena Vista H.C./2023 全日本中学生ホッケー選手権大会優勝チーム）とのテストマッチ

10分×男女各3ゲーム

※ビデオ撮影（今後のオンライン学習の素材として活用）



11:20

ダウン（森トレーナーによる）

11:40

閉校式（進行：富田）

- ・まとめのあいさつ（馬場）
- ・諸連絡（三好）

- ・保護者へのあいさつと諸連絡（馬場）



トレーニングパートナーの

Hiroshima Buena Vista の選手たちと ↓



12:00	解散
12:15	送迎 ・バスにて広島駅まで

(2) 保護者対応

- * 合宿中の保護者への対応全般は、馬場が行う。
- * 詳細の対応については、内容に応じて三好(統括コーディネーター)および余吾(旅行業務担当)が個別に対応した。

* U15 日本代表選手選考会後のタイミングであることから、下記の内容を保護者向けに話した。(実施責任者：馬場)

- ・ U15 選考会の結果について、男女 18 名の日本代表に多くのエリートアカデミー生が入ることが予想される。しかし、当日の調子や監督の目指すチームプランにより、選考から漏れる選手は出てくるであろう。
- ・ 選考結果で一喜一憂しないで欲しい。
今回の選考結果が全てではないことを、保護者は踏まえてお子さんと話をしていただきたい。
- ・ 過去のデータから、現実的には、今回の U15 日本代表から将来のサムライ Japan・サクラ Japan に入るアスリートは 1 名～数名であると予想される。つまり、ここに集まるアスリートが目指す、まだオリンピックなど世界で活躍する道は始まったばかりであることをご理解ください。

4 成果・課題

(1) 活動の成果

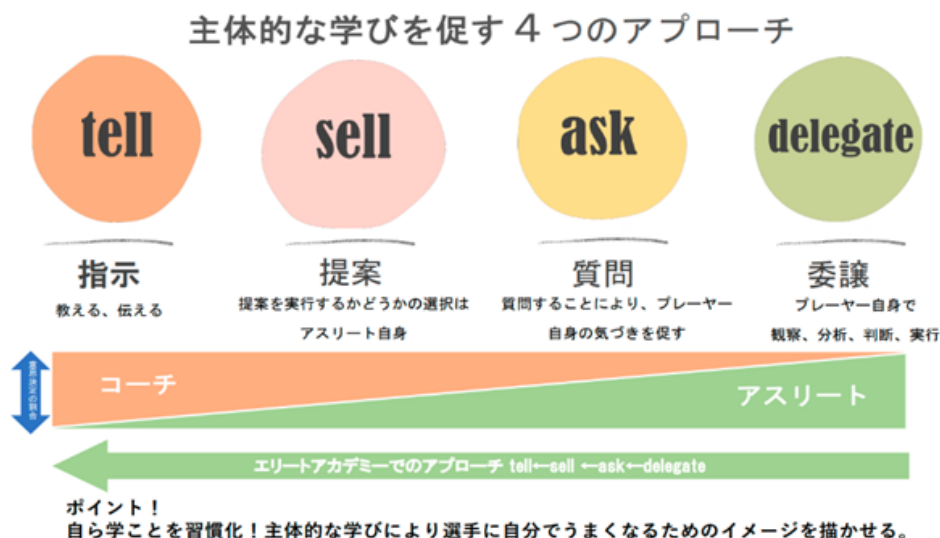
2 回目の集合合宿は、前回合宿（6 月／岩手合宿）から 3 ヶ月後と間が空いてしまっていたが、オンラインによるトレーニングや栄養講座、全日本中学生選手権、U15 日本代表選考会などで顔を会わす機会もあったためか、アスリート間の仲間意識は高まっており良い雰囲気で行われている。高い志を持ったアスリート同士であることから、大会等でも互いに意識し、互いの活躍に刺激を受けていたことが伺える。

指導する我々（強化スタッフ）にとっては、対面で行う合宿はアスリートの成長を、直接、目で確かめることができることと、言葉を交わすことから大会等での労をねぎらうこともでき楽しく貴重な時間といえる。

この事業でのトレーニングスタイルは、アスリートの主体的な学び合いを重視した手法を大切にしている。指導者からは、身につけたいスキルや戦術を学ぶためのきっかけ（ヒント）が投げかけられアスリート自身が考え・判断し・実践できるように成長していくことを求めている。（6 月報告再掲／右図）

また、トレーニングプログラムの全ての場面で、ゲーム中のシチュエーションを想

定した内容を意図的に提示している。ゲーム中のどの場面で使えるかを常に考えトレーニングすることの大切さが徐々にアスリートに育まれていることがゲーム前後の話し合い（チーム・ミーティング）の場面からも伺うことができた。



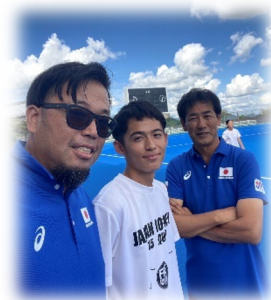
このことは、先日行われた U15 日本代表選考会においても、初めて出会った監督の指示により、普段一緒にプレーしていない仲間と即席チームを編成しプレーしていかなければならない状況などで力を発揮できること間違いのないであろう。今回の U15 日本代表に多くのエリートアカデミー生が選考された成果の大きな要因であるとスタッフ一同自負しているところである。

今年度より導入している AI カメラ（STADIUM TUBE）の活用も軌道に乗り、合宿初日の夜のミーティングには日中の自分たちのプレーを確認できるので、話し合いに現実味が帯び次の日に活かされていた。

更に、栄養サポートスタッフ（管理栄養士、スポーツ栄養士）の広瀬氏がスタッフとして入ってくれてことにより、ホテルで提供されるメニューをアスリート対応に変更したり、事前のオンライン講座や資料の提供によりバイキングにおいてもアスリートとして必要な栄養を自ら選んで適量を摂ることを意識的に行うことができていた。栄養について、こうした地道な努力がアスリートの成長を支えることにあるであろう。

ここに集まったアスリートには、各地域に戻ったときに、チームや県、ブロックを引っ張っていく存在として活躍してくれることを期待している。そのために、主体的に学び・実践力のあるアスリートとして成長してくれることが何よりも大切であるといことが浸透しているのをアスリートの姿から実感できる合宿であった。

今回の広島合宿では、広島出身のエリートアカデミー1期



生で、現在県外高校で活躍しているアスリート 2 名駆けつけてくれ一緒に練習に参加してくれた。これもスタッフにとっては嬉しい出来事であった。

(2) 課題・改善点

まず、合宿におけるトレーニングパートナーの確保について、前回の合宿では前年度の都道府県対抗 11 人制大会で男女とも決勝進出した岩手県チームと試合（テストゲーム）ができ、今回の合宿では男子は今夏の全日本中学選手権で優勝した広島県の Buena Vista H.C.、女子は広島山陽高校と試合をさせていただくことができた。

実戦を想定したトレーニングを重要視しているエリートアカデミーの集合合宿においてトレーニングパートナーは大切な存在である。

しかし、今回の合宿地は茨城県境町を予定しており、地元チームが存在しない。トレーニングパートナーの招聘は難しそうであるためプログラムに工夫が必要になることが大きな課題として挙がっている。

JHA エリートアカデミー第 2 期では、①U15 からの推薦、②J-STAR からの適性検証をクリアしたアスリート、③開発実証からのホッケー未経験のポテンシャルアスリートという 3 つのカテゴリーからのアスリートが混在している。

特に③開発実証から選考された 2 名のアスリートには、居住地トレーニング（地域クラブ等とのマッチング+オンライントレーニング）により、いかにケアしていくかが当該アスリートの成長を大きく左右することになるが、オンライントレーニングによる個別の課題提供など更に丁寧な対応が必要な段階に来ている。アスリートの成長を見極めながら適切な課題提供と丁寧な対応を進めていきたい。

また、現在、強化育成本部テクノロジー&デブロップメント部が中心に取り組んでいる、世界で活躍するホッケー選手を発掘・育成するためのアスリート育成パスウェイ「ホッケー版 FTEM」の完成を、JHA エリートアカデミーの活動とリンクさせ同時進行で進めていくことが求められる。

こちらについても、JSC の指導をいただきながら、他のカテゴリー（U12/U15/U18/U21/サムライ・さくら）スタッフと連携し今年度末の完成を目指していかなければならない。（前回報告再掲）

更に、スタッフの充実についても事業を恒常的に進める上では大切な問題である。女性スタッフが薄くなっている現状の早期解決は重要課題である。（前回報告再掲）

以上